

## 2 米国ノースカロライナ大学 ウィルミントン校(UNCW)との遠隔講義

岩手県立大学看護学部 准教授 アンガホッフア司寿子、准教授 細川舞

該当する  
原則

### 原則 10：異文化間の対話や相互理解を促進し、不寛容を取り除く

## 1. 活動の概要

看護学部3年次生の選択科目である国際看護論演習は、2年次必修科目の国際看護論の学びをベースに、①国際的な視野に立ち、学生が主体となって保健・看護上の課題を見つけ、看護職の役割について考察できること、②履修者同士ならびに海外の学生等とのグループディスカッションや交流、プレゼンテーションを通して国際看護学について理解を深めること、の2つをねらいとしている。

米国ノースカロライナ大学ウィルミントン校（以下、UNCW）とは、2002年に協定を締結し、2005年から双方からの遠隔によるプレゼンテーションを開始した。それ以降、毎年2回の遠隔講義を主とした交流を継続している。この遠隔授業は、2009年から国際看護論演習の科目のなかの位置づけとなっている。

履修生は、遠隔授業に向けて、グループワークにより国際的な視点で健康課題に関連するテーマを選び、異文化交流を意識したプレゼンテーションの作成に取り組んでいる。テーマに沿って調べて考察した結果を英訳してスライドを作成し、発表に向けてネイティブの講師の指導を受け発音練習を行っている。



発音練習の様子

AVホールでの遠隔授業の様子

## 2. 本学履修生の プレゼンテーション（2023年1月）

開催日時：2023年1月31日

参加者数：約60名（履修生7名）

### (1) To Protect Yourself from Earthquakes in Japan

東日本大震災や熊本地震の経験から、避難場所での生活でリスクが高まる健康課題に着目した支援について紹介した。例として、不便な仮設トイレにあまり行かないよう水分摂取を控えたり、避難場所での狭いスペースで長時間身体を動かさなかったりが原因で、深部静脈血栓症のリスクが高まることなどの説明をした。

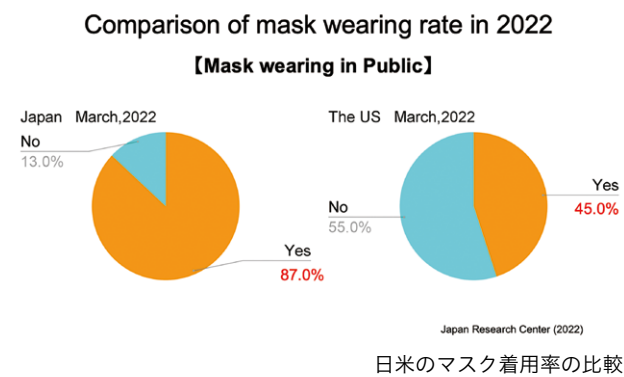
また、日本に在留する外国人が、災害時に情報を得たり、避難方法を理解したりできるような工夫について写真を示して紹介した。

さらに、日本の学校における災害教育として避難訓練の様子を動画で流した。災害による抑うつに対する、長期的な心理サポートの必要性についても説明した。

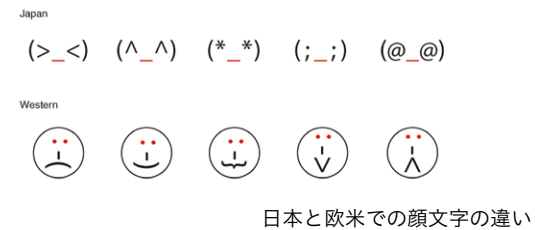


### (2) Dealing with Covid-19 –Masks

COVID-19のパンデミックから感染予防対策として生活習慣の1つとなったマスクの着用について、日米の比較の発表を行った。2021年と2022年の両国のマスク着用率では、日本ではほぼ変化がないのに対し、アメリカでは着用率が大きく減少している。



その背景として、コミュニケーションにおける顔のどの部分を重視しているかの文化的違いがあることを説明した。日本では目を重視する一方で、アメリカでは口元を重視するため、マスクで口元を覆う影響の違いを示した。またSNSやメールなどのコミュニケーションツールで使われる顔文字にも、感情表現をする顔のパーツが意識されて反映されていることをイラストで説明した。



UNCWの学生からは医療者の立場として「日本でマスク着用が必要な場で協力してくれない人にどうお願いをしているか」という質問があった。日本ではマスク着用の協力依頼で困難を感じる場面が少ないことを伝えたが、その質問からも日米でのマスク着用への意識の違いが感じられるディスカッションであった。

## 3. UNCWのプレゼンテーション

開催日時：2023年11月7日

参加者数：約60名（履修生12名）

### (1) Effectiveness of Current Complementary Therapies on Pain in Labor and Delivery

UNCWの看護学部生から、産痛に対する代替療法の効果をテーマにプレゼンテーションがあった。現在アメリカでは産痛緩和として硬膜外麻酔（無痛分娩）やオピオイド鎮痛剤が主流であるが、欧米ではあまり使われない非薬物療法についてのシステムティックレビューの報告であった。

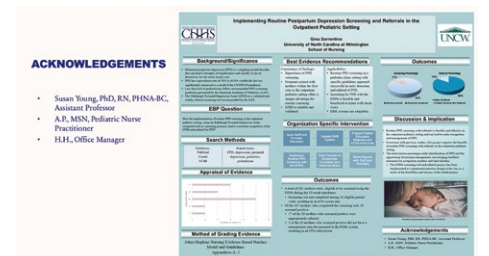


UNCWの看護学部生の発表スライド

最も多く行われていた代替療法はマッサージとツボ押しであり、それにより産痛が有意に軽減されていたことが説明された。対象がトルコやイランといった中東の国の論文が多かったため、今後は世界的にどのような産痛緩和ケアが行われているか、その効果と共に明らかにしたいという発表であった。

### (2) Implementing Routine Postpartum Depression Screening and Referrals in the Outpatient Pediatric Clinic Setting

博士課程を修了したファミリーナースプラクティショナー（FNP）から、産後の母親に実施する産後うつ病自己評価票（EPDS）によるスクリーニングを、小児科の外来で行う取り組みについて研究の紹介があった。



紹介された取り組みを発表したポスター

日本でもEPDSによるスクリーニングは実施されているが、産婦人科の病棟あるいは外来、地域での新生児訪問時で活用されている。研究結果からは、産後の母親が子どもの受診で継続的に訪れる小児科外来にて実施することによる、早期の発見と専門医紹介といった管理に効果的であることが報告された。日本でも参考となりうる興味深い報告であった。

## 4. 履修生の感想

- ・UNCWの学生から「日本はどうか?」という質問が多かった。外国の人と関わる上で、自分の住んでいる国や地域の把握が重要であると学んだ。
- ・質問されることは相手が興味を持ってくれて嬉しいことに気付くことができた。また、私は質問することや意見を述べることに躊躇してしまうことが多いため、アメリカの学生のように積極的に発言できるようになりたいと感じた。
- ・日米の医療の在り方の違いを学ぶことができた。
- ・自分が話す英語は海外で通じるのか、どのように話したら聞きやすくなるのかなどを考え毎日練習した。グループでも練習した。その結果、自分の話す英語に対して以前より自信を持つことができた。



プレゼンテーションの様子